

育成

モノづくり人材

Vol. 55

佐賀県立佐賀工業高校

工業高校として九州で2番目の歴史を持つ佐賀県立佐賀工業高校。全国高等学校ラグビーフットボール大会



松田校長

出場常連校で、2015年のラグビーワールドカップで活躍した五郎丸選手も卒業生。スポーツ強豪校としても知られるが、モノづくり人材の育成では地域や世界とのつながりを通じ、社会に貢献するための力を育んでいる。

伝統の鑄造教育受け継ぐ

【DATA】▷校長=松田一哉氏
▷所在地=佐賀市▷学科=機械科、電気科、電子情報科、建築科
▷総定員=全日制840人、定時制160人▷主要設備=マシニングセンター、ワイヤ放電加工機、溶解炉、NC旋盤、立型フライス盤など▷主な進路=いすゞ自動車、三菱電機、川崎重工業、九州電力、西日本鉄道、トヨタ自動車九州、戸上電機製作所、松尾建設、佐賀大学など

につなげるなど工業高校ならではの技術力を向上させている。国際交流も盛ん。4年前に始まった韓国の



鑄造技術とともに地元のモノづくりの歴史を学ぶ

意識する場として、2年生と保護者を対象に進路説明会を開催している。そこでは県内26社が各教室に分かれ、仕事内容や会社の雰囲気を紹介。地域で働く魅力を感じる機会となる。

地域や世界を意識する活動の軸には同校が掲げる教育方針「SA KOV(佐工V)」の理念がある。「咲こう」の意味もある「(松田校長)というこ

のキューボラ(溶解)を鑄造していたことも、実習が特徴的。地元企業の技術者が講師となり、本格的な鑄造にも積極的。佐賀県は、最新技術による教育の様子を把握して改善は英語で積極的にコミ

ユニケーションして国際感覚を養う。地域とのつながりを通じた学習にも力を入れている。「ものづくり体験教室」では生徒が地元の小中学生にロボットを指導する。松田一哉校長は「生徒が教える立場となり、学習効果を実感する機会となる」と語る。卒業後の地元就職を

(西部・高田圭介)
(金曜日掲載)